



ニラの主要成分含有量



写真1 栽培ほ場



写真2 出荷物

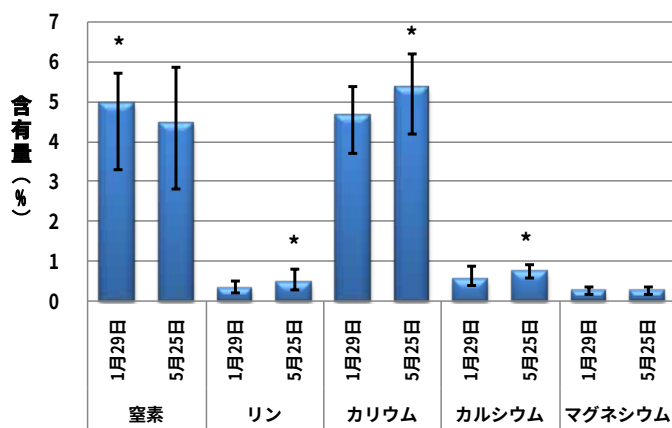


図1 出荷物中の多量要素含有量

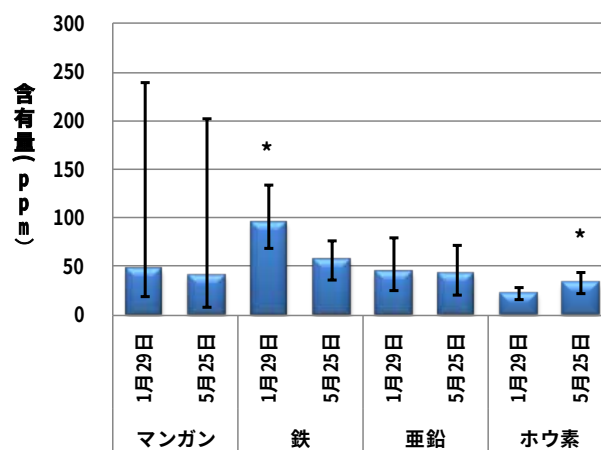


図2 出荷物中の微量元素含有量

注: 出荷物(写真2)について各時期30戸調査。

棒グラフは平均値、エラーバーは最大値と最小値を示す。

*は有意水準5%で有意。(図2も同様)

本県の基幹品目である施設ニラ栽培では、葉先枯れ症状を示す生理障害による品質低下が問題となっています。これまでも障害葉等の分析を行ってきましたが、発生原因は特定されていません。そこで、ニラの栄養診断の基礎資料とするため出荷物(写真2)の成分含有量を調査しました。

多量要素では、窒素は3.3~5.9%(平均値 4.7%)の範囲に分布し、1月の含有量が5月より高くなりました。リンは0.2~0.8%(平均値 0.4%)の範囲に分布し、5月が1月より高くなりました。カリウムは、3.7~6.2%(平均値 5%)の範囲に分布し、5

月が高くなりました。

微量元素では、各成分とも平均値は100ppm未満でしたが、マンガンは7.4~240ppmの範囲に分布し、変動幅が大きくなりました。亜鉛や鉄も変動幅がやや大きい傾向にありました。一方、ホウ素の変動幅は小さく、20~30ppm前後で推移しました。

以上より、成分ごとの含有量の変動幅や季節による違いが明らかとなりましたので、ニラの栄養診断基準づくりに活用する予定です。

(土壌肥料担当 飯田佳代 088-863-4915)